

2022 年度 本部・施設事業報告書

社会福祉法人有隣社福祉会
風の子保育園

本部事業

- ・評議員会 2022 年度定時評議員会 6 月 21 日
- ・理事会 4 回 5 月 21 日、8 月 24 日、12 月 24 日、2023 年 3 月 11 日
- ・東京都中規模改修業者入札立ち合い 9 月 15 日
- ・区の巡回指導(2 名)11 月 15 日
- ・施設監査 2023 年 1 月 20 日

施設事業

I 児童の状況

月 歳児	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延べ(人)	備考
0	0	2	2	2	3	4	4	9	9	9	9	9	62	支援児 1 人
1	17	17	17	17	16	16	17	17	17	17	16	16	202	
2	16	15	15	15	15	16	16	16	16	16	16	17	190	支援児 1 人
3	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216	支援児 1 人
4	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	204	支援児 2 人
5	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216	
合計(人)	98	97	97	98	98	98	98	98	98	98	97	97	1090	

職員の状況

2022.4.1

正規職員数(実働 6 時間以上)	人	契約職員数(実働 6 時間未満)	人
基準内保育士	12	保育士 7:30~11:30・15:30~18:30	2
充実・特例保育士	3	保育士補助 15:30~18:30 15:30~19:00	2
主任保育士	1	調理員 8:00~12:00 8:00~13:00	2
基準外保育士	8	調理員 13:00~16:00 12:30~17:30	2
固定出番保育士	8	用務員 7:00-9:00 12:15~16:15	2
短時間保育士	2	用務員 17:30-19:00 18:00-19:30	2
看護師	1	子育て応援職員	1
栄養士・調理師	2	(内再雇用)	(7 名)
園長・事務員	2	嘱託医・歯科	2
(内再雇用)	(2 名)		
合計	29	合計	15

II 保育の内容

保育・引き続き健康チェックカード活用、手洗い、三密を避ける、消毒、食事では全部屋使用、テーブルの間隔や座り方等工夫しコロナ対策を行った。

- ・保護者と共に子ども達の成長を確認できる機会として、行事も取り組んだ。

乳児 (0 歳から 2 歳半まで)

- ・0 歳児が 4 月 0 人、徐々に入園し 11 月で 9 名揃う異例の事態となった。1 歳前後の新入園となったが家庭との連携に配慮し保育した。0 歳児のオムツは無料とし 1 歳児以上も手ぶらオムツの利用を行った。
- ・子どもの思いを受容すること、大人との応答的なやりとりを大切にしてきたことでトラブル噛みつきも少なかった。

幼児（2歳半から5歳児）

- ・子ども一人ひとりが「明日には達成できる」頑張り目標を見つけ楽しく元気に遊び、自主的、主体的に取り組む力をつけてきた。
- ・子どもが自ら挑戦、努力して獲得した発達課題を披露、みんなで成長を喜び合う場として行事を大切に、子どもにとって自然にできる方法を考え行った。保護者からは「コロナ禍でも実施してもらい子どもの成長を見ることができて良かった」という感想を頂いた。
- ・感染対策の為、食事時チームで離れていたが子ども同士で関りが持てるよう意識して取り組んだ。
- ・♡マークの保育士を加配、安全に楽しく遊べるよう机、椅子、玩具等の消毒を行った。

Ⅲ 健康及び安全

- 1 子どもの健康支援 子どもの健康及び安全の確保は子どもの生命の保持と健やかな生活が基本である。
 - ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染対策を徹底、健康チェックカードを活用し、園児、保護者に体調を日々記入してもらい、健康状態を把握した。
 - ・37.5℃以上の発熱児は3階の静養室に隔離、早めのお迎えと受診を勧めるなどの対応を行った。
 - ・園内では換気、消毒を徹底。チェック表に沿って定期的に手すり、玩具、テーブル、椅子等を含め消毒を継続した。
- 2 食育の推進 食育は健康な生活の基本としての「食を営む力」を養うことに力を入れた。
 - ・自分で「好きなものを好きなだけ選んで食べる」ことを大切にし、卒園時には「苦手だったもの」が食べられるよう長い目で見守った。
 - ・給食と保育の連携を図り、感染対策のためテーブルの位置、座り方、小声で話す等工夫して楽しい給食時間に努めた。献立内容を3群表やひらがな表記の献立表でわかりやすく知らせる、屋上での収穫物を給食に取り入れる、感染対策を充分にして調理保育を行う等食育教育の充実を図ったが、子どもと共に食事が出来なかった。
- 3 環境及び衛生管理並びに安全管理
 - ・睡眠中0歳児は5分、1・2歳児は10分、3～5歳児は15分間隔で呼吸チェック等事故防止マニュアルを厳守、絶えず換気を図り、事故防止と感染拡大防止に努めた。
 - ・怪我、事故の報告は速やかに行いヒヤリハット(37件)を起こし分析検討、再発防止に努めた。
 - ・352件の怪我報告があった。(転び56件衝突52件躓き23件)
- 4 災害への備え
 - ・訓練を通して職員が主体的に行動できるよう努めた。
 - ・12年間続けてきた「災害伝言ダイヤル171」を今後も活用、定着させていく。
 - ・備蓄品は消費期限前に計画的に給食献立に取り入れて味に慣れるようにしている。

Ⅳ 子育て支援

- 1 安心して預けられる保育園をめざして
 - ・乳児懇談会、離乳食講習会、秋の幼児親子遠足、4.5歳児クラス別懇談会は感染対策をとって実施し交流を図った。縦割り懇談会は日々の生活をスライドにしたことでリアルに伝えることができた。
 - ・子育てのパートナーとして卒園してからも継続的に支援を行っており、1年生の親睦会、小学生、中高生同窓会を実施した。
- 2 地域に開かれた保育園をめざして
 - ・園見学、プレママ体験、保育体験は予約の上実施した。
 - ・土曜日の行事は竹馬・下駄作り、お話し会・リトミック、作品展お店屋ごっこ、親子クッキング実施。
 - ・情報誌を年間12回発行配布した。在園向けに子育てミニ情報を発行した。
 - ・フードドライブに取り組んだ。年4回
- 3 苦情としてはなかった。3件注意があった。担当部署・保育・リーダー・職員会議で分析、保護者に謝罪し信頼回復に努めた。

Ⅴ サービスの質の向上をめざして

- ・保育指針と年間計画、組織図に基づいて全職員が目標をもって各々の場所で力を発揮、サービスの質の向上に努めた。

研修 園の保育理念、保育指針に基づく保育課程、保育内容の充実、課題や職員のキャリアパス等、計画を基に研修に取り組み自己研鑽に努めた。保育サービス課 27 件アイキッズ 5 名加賀児童ホームに 7 名高島養護 4 名縦割り保育 10 名コーディネーション 4 名リトミック 4 名リズム 1 名参加し現場から大いに学んだ。

VI 広報活動

- ・日程変更等メール、ホームページ、掲示でお知らせした。見やすく読んでもらえる記事に取り組んだ。
- ・園の生活が分かる内容で情報誌・掲示板に掲示、フォトフレーム、リアルタイムを積極的に活用した。

VII 危機管理

- ・濃厚接触者を出さない為に机を購入、昼食、おやつ、補食時は座席を把握し対応した。
- ・情報管理は保護者、関係者全員から誓約書を取り、パスワードを設定しているが不十分である。

VIII 施設整備について

- ・児童玄関の雨漏り改修を東京都の補助金を得て実施。板橋区の補助金でコロナ対策として自動水栓に交換等・「コーティング除菌」プラチナペール施工実施。

IX 職員処遇について

- ・23 名中（保育士短時間勤務 2 名、固定勤務 8 名）13 名の保育士が変則勤務担当、本俸の 10%を手当として支給、保育士間のチームワークを図ると共に子育て中の職員が働き続けられるよう引き続き配慮した。
- ・全職員にコロナ対応等の過重労働に対して 12 月に特別手当を支給 3 月に処遇改善臨時特別手当を支給した。
- ・実践会議を月 2 回教材準備や研究が行えるようにした。インテリアは若手の保育士が担当、定額の改善手当をつけた。
- ・宿舍借上げ支援制度を 5 名が活用し職員の定着に繋がった。
- ・保育士の保育力、教育力が強く求められている中、働き方改革と保育の質の向上を共に進めていく工夫、努力を続ける必要がある。

X 決算について（別添）